プロレタリア通信

共産主義者同盟機関紙

東京都文京区元町1の7
世界労研気付
(92)5939.

NO25

十一・二七の全国的政治ストライキと大デモンストレーションによって調印阻止の決定的行動たらしめよ！

(1) 敵は"最も有効な"調印めざして進んでいる

国会の答弁で岸は「十二月末か一月はじめの渡米調印」を明言した。

臨時国会の焦点としての自民党の"台風災害復旧カンパニヤ"は既に終り、かわって「安保とロッキード」が焦点として浮かび上っている。

調印にたいする大衆運動の高まりと、その決定的要因たる総評大会を前にして、資本家階級の最高部分の全知能は階級関係の彼らの側からの「読み」に集中され、それが「炭労三池」にたいする攻勢方針の決定をめぐって、現在最も緊迫した段階にある。

「三池」をめぐる階級関係は、我々の予想した現在の力関係下に於ける最悪の事態を生み出す可能性が大きい。

「三池に希望退職をのませ、安保斗争と結合することを防ぐ」という中山と多くの資本家の説得に、炭労指導部と三池の「首脳」は、完全にまき込まれている。

彼等は既に「希望退職」については全く誤り現在「活動家の解雇」に焦点が絞られているが、これについても総評と当局首脳は「活動家の配転」でまとめるために「労使双方」に必死の説得中であるという。この斗争の泥沼斗争化を怖れ、斗争を革命的に、全国的政治斗争に結合していく方針をもてず見通しと確信を全く失っている彼等は、今や斗争をやめることしか考えていない。資本の側は徹底的に高姿勢に押しており、ただこの状勢を、最悪の事態にさせぬものは、三池のヤマの労働者の斗う力――その切方針にたいする斗争にだけかかっている。

総評大会の低調な状況と民同の急速な右傾は、資本家を更に元気ずけ、高姿勢をとらすだろう。

国会の安保論争とロッキード論争、もともと資本家政府にとって有利ではない筈のこれらの論争を、全く大衆斗争なしで見送れていることから、岸政府は、これらを通じて安保改定の事前を作り出すことに利用している。そしてこの高姿勢の彼らの内は、次の政治攻勢の準備が「労働関係の全面再検討」(十三日読売新聞)、「警職法再提出」(一年日労発行)という形では められている。

(2) 総評の決定的裏切り
——総評大会を"安保・炭労ではなく"春斗のために"——

この通達の到着する時には、総評大会が終っているだろう。
ここでもまた、現在の条件下では、民同はなしうる最大の裏切りを、いまわれわれはいわねばならない。
十四日の総評、書記長会議では、総評幹部会は、十一・二七はデモ、十二・十は実力行使をめざす、という方針を提案し、全金、国公関係など中小単産の反対をうけたが、国鉄の木村組織部長が「無理だ！」と声明したために、大体その方向で決定された。
総評大会の議題は「炭労闘争支援と安保闘争のために」という当初の予定から、「安保春闘」にかわり、「十一・二七ゼネスト」はどこかへふっとんで、十二・十をともに闘うし「資金を清算と合わせて闘うことになってしまった。炭労についても「金を送る」というだけであり、これらのかわりに「春闘を、長期に巾と厚みと広がりをもって闘う」というわけだ。
今、安保闘争の調印前の決戦を前にして、民同は闘争を放棄した。
資本家階級の両翼勢力と、その手代西尾派勢の攻撃の前に、民同左派は一つの危機に立っている。炭労に対する決定的攻撃、鉄鋼における右派の攻勢——大手鉄鋼各社と、富士鉄室蘭以外スト権がとれない——を前にして、彼らは新しい攻勢に出る能力を全く喪失し、資本攻勢とのよりよい条件での妥協、西尾新党—全労とのよりよい条件での妥協をめざす方向を追求し始めている。
彼らの手中で、安保斗争は進むことができない。彼らの手中で安保斗争が後退している内に、資本家階級の攻勢は、労働者階級内に、二楔も三楔もクサビを打ちこもうとしている。
この危機をきりぬける為に、われわれは全力を上げねばならぬ。
前衛の全力あげた斗争の組織と彼らのバクロだけが、この危機を突破する。中小単産のつきあげや、ストライキ斗争は、労働者の斗争力がなくなっているどころか、引き出せば無限に存在していることを示している。この力をひきだし、われわれの手でつくり出すこと、このことが今こそ決定的に必要なのだ。
そしてそのカギは、十一・二七にある。

(3) 十一・二七がすべてを決する

総評大会に報告される状況では、炭労二四時間、全鉱二四時間、全日通二四時間、の各々期末手当と合わせたスト、合化、合金、化学同盟の期末手当と合わせた五割以上のスト、ということになっている。
この岩井によってなされる報告を、彼らの裏切をハネのけて、実際にかちとることにわれわれの任務がある。
しかし、現実の状況は、日通、合化の大手が斗いに加わることは困難である。
十一・二七を基幹産業の主要の生産部内をマヒさすゼネストにすることは、残念ながら、今は日通しかない。
安保斗争を独自の政治斗争として斗うことについての全くの立ち遅れ、日和見主義と無理解が、この状況をつくったのであり、そしてさらに、安保斗争についての日共からまきちらされる民族主義、小ブル平和主義的把握が、階級意識を労働者に吹きこみ、斗う雰囲気をつくることを出来なくさせている。
その意味で、安保斗争については、職場からの階級的な、宣伝と討議を徹底的に起して行くことが必要だ。
長い間つづけられてきた本当のやる気のない斗争、スケジュール的斗争デモを、今こそふっきって、ストライキを主形態とした階級的斗いに、今こそ安保斗争を転換さすときだ。
十一・二七はまさにその日だ。
総評大会の方針の枠に、「十一・二七も十二・十も」と云っても、期末手当と多くからんで斗われる二七日の斗争が盛り上った雰囲気をつくり出すような斗争にならなければ十二・十の斗争もつくり出せない。

春斗のなかに安保斗争をもちこみ、阻止するまでの波状ゼネストをつくり出すためにも、二七日の斗争は決定的である。
二七日のデモを徹底的に斗いぬこう！
二七日のデモを十二・十のストライキへ！

(4) 二七日を全国的政治ストライキへ！
——首都の国会デモを中心とする大政治デモをかちとれ！——

二七日の主斗争形態は、ストライキと結合したデモンストレーションとなる。
二七日を調印阻止の斗争の突破口とするために、日本資本主義国と岸政府をふるえ上らすために、全国的政治ストライキへ参加するために、すべての職場で斗え！首都の国会デモを中心とする政治デモに、すべての労働者は参加せよ！
これがわれわれの行動のよびかけだ。
スト権をとった所では二七日に二四時間ストライキを横にひろげろ！
十・三〇につづいて、ふたたびストライキ斗争にたち上り、職場交流、ビラ入れ、青行隊などあらゆる手段によって、全学連のことを最も有効に労働者の斗いとむすびつけよ。学生と交流せよ！
彼らの革命的思想を労働者の中へ！
スト権否決のところでは再投票のために全力あげよ！
徹底的な宣伝、大衆討議を起し、ワッペン、旗、ビラ、ステッカーで職場を埋めつくせ！
ストライキの全労働者は二七日大政治デモに参加せよ。デモを真に労働者のデモとして敵に対して戦斗的に斗いぬこう。
ストライキをデモへ！デモを通してさらにストライキを拡大せよ！
首都の労働者の国会へのデモは、決定的意義をもっている。
東京の全労働者は国会へ！
国会へ座りこんで斗おう。岸を労働者の前にひきずり出せ！
ストライキ斗争で国会請願を徹底的に斗う全学連と共に斗おう！